

小麦

管内の生産状況（平成29年）

栽培面積	4,906ha
出荷量	18,918t
生産者戸数	516戸

栽培品種の特徴

小麦には、秋に播種して次の年の7月下旬に収穫する「秋まき小麦」と、根雪前に播種または春に播種して8月上旬に収穫する「春まき小麦」があります。

きたほなみ

北海道の小麦生産の約90%を占める代表選手です。多収に加え、うどん用に国内で最も使われている「ASW」（オーストラリアスタンダード小麦）に限りなく近い品質の秋まき小麦です。

キタノカオリ

その名の由来になったように香り・味ともにナンバー1の秋まき小麦です。高い収量性のほか、パンやラーメンへの適性も高いのが特徴です。また、パスタに利用され人気が高まっています。栽培が難しい品種ですが、当JAがこの品種の主産地として取り組んでいます。

※岩見沢市内の学校給食で使用されています。

春よ恋

数少ない春まき小麦の中で、生産量が最も多い品種です。タンパク含量に優れ、パンやラーメンへの適性が非常に高く、改めてその特性が評価されている小麦です。

はるきらり

春まき小麦の品種です。収量性が高く、パン・ラーメン用として使われています。



生産・出荷の取組み

JA施設での集約調製

良質なものを出荷するため、生産物をJA施設に集め、主にふるいと比重選別機で未熟粒や異物除去などの調製を行っています。期間が限定されるため施設の稼働を夜遅くまで行うことがあります。

良質小麦生産のための自主規格の設定と自主検査の実施

JA施設に出荷された生産物は、一つひとつ自主規格に基づいた自主検査がなされ、適正な施肥や防除が行われたかを厳しく検査しています。

大豆間作小麦の取組み

連作（同一圃場で同一品種を続けて作付けすること）すると病気の発生が多くなるため、輪作（異なる数種類の作物を一定の順序で繰り返し栽培すること）を進めています。大豆を収穫した後に小麦栽培を行う場合は、大豆を収穫する前に無人ラジコンヘリコプター（全長約3.5m）で小麦を播種しています。

初冬まき小麦の取組み

通常春に播種する春まき小麦を前年の根雪前に播種して生育期間を長くし、安定多収を図ります。越冬技術によって成果が上がっています。

キタノカオリの振興

国産パン用途強力小麦の需要に応え、他産地に先駆けて試験栽培から取り組み、作付けしています。平成16年産から岩見沢市の学校給食にパンとして登場し、定期的に使用されています。

栽培履歴の記帳

生産者には栽培履歴・GAPの記帳・提出を義務付け、肥料・農薬の適正使用のチェックを行っています。

